

# 尊き平和胸に刻む

愛媛大生が式典参列

## 犠牲者の遺品前に涙



平和記念式典に参列し、核なき世界への思いを新たにする愛媛大生ら  
＝6日午前9時45分ごろ、広島市

愛媛大法文学部で「平和学」を受講する学生8人が6日、広島市で開かれた原爆の日の平和記念式典で、核なき世界への思いを新たにした。広島平和記念資料館では原爆の恐ろしき、平和の尊きを学んだ。

和田寿博教授は核兵器の悲惨さを被爆地で実感してもらおうと希望者を募り、毎年8月6日に合わせて学生を引率している。

「現地には足を運んで、この暑さの中じゃないと、亡くなった人たちの思いは分からないと思った」。式典後、法文学部1年の喜多縁さん(19)は大粒の汗を拭いながら語った。「ここで多くの人が苦しみながらなくなったことを、きちんと後世に伝えていきたい」。学生らは、大勢の参列者に交じって原爆死没者慰霊碑前で献花した。

資料館では全身にやけどを負った男性の写真、真っ黒に焦げた弁当箱などが原爆被害の甚大さを物語っている。教育学部4年

の瀬野晴日さん(21)は「当時、生きていた一人一人を思うとあまりに悲惨で、目を背けてしまいそうになった」と率直に打ち明けた。

品や写真を見つめていた法文学部2年の玉井詩織さん(20)は「若い人の遺品が多くて驚いた。リアルな写真があることも知らなかった。見ていてしんどかったけど、見なければ

実感できなかった」と吐露。和田教授は「式典への参列を通し、国内外の人が集まって平和を願っていると知ってもらいたい」と語った。(伊藤愛)